

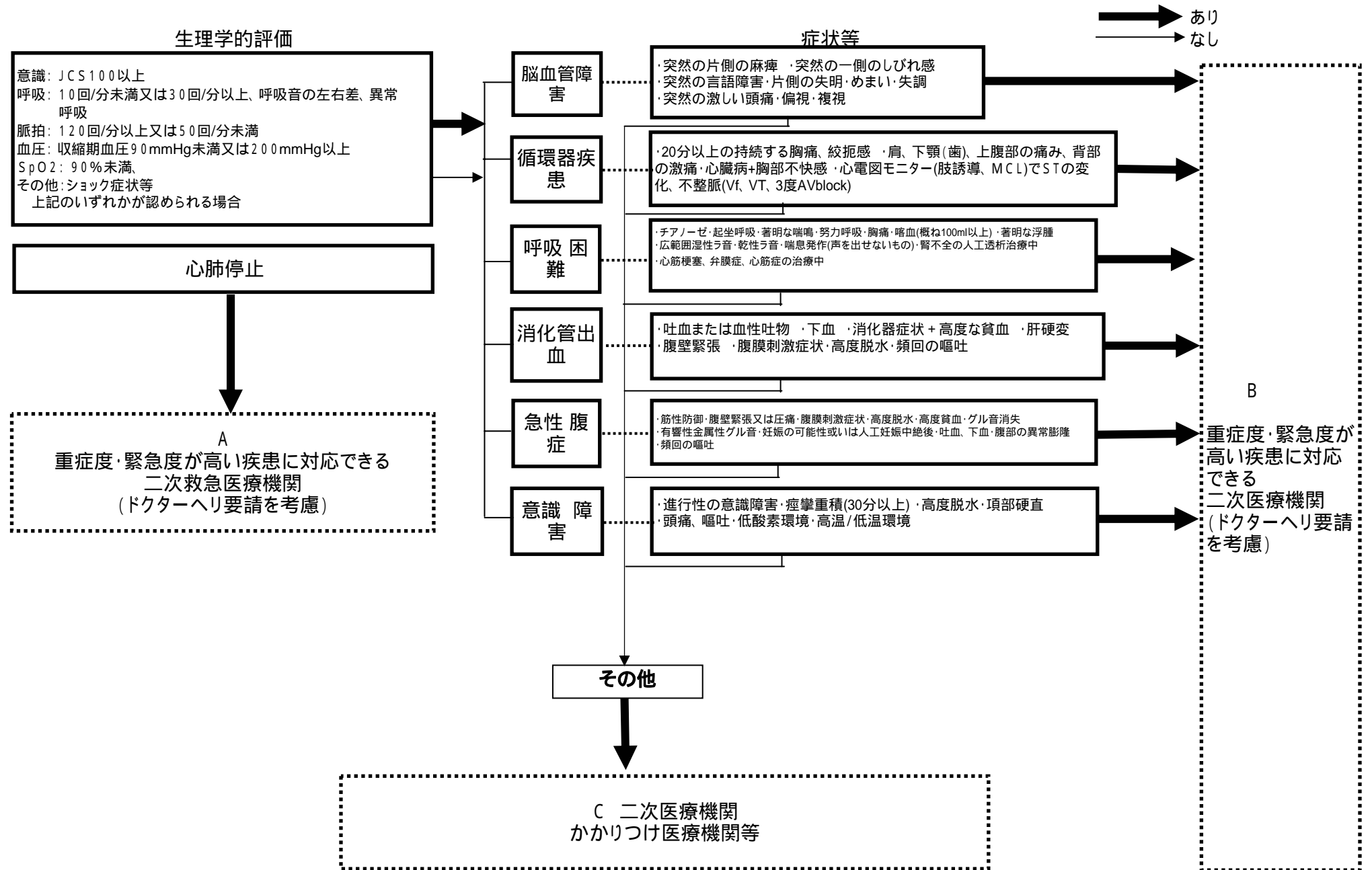
傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準

対馬地域

平成22年12月

目 次

	頁
(第1号) 分類基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
傷病者の心身等の状況に応じた適切な医療の提供が行われる ことを確保するために医療機関を分類する基準	
(第3号) 観察基準	
消防機関が傷病者の状況を観察(確認)するための基準	
(第2号) 医療機関リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
分類基準に基づき分類された医療機関の区分及び当該区分に 該当する医療機関の名称	
(第4号) 選定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
消防機関が傷病者の搬送を行おうとする医療機関を選定する ための基準	
(第5号) 伝達基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
消防機関が傷病者の搬送を行おうとする医療機関に対し傷病 者の状況を伝達するための基準	
(第6号) 受入医療機関確保基準・・・・・・・・・・・・・・	7
傷病者の受入れに関する消防機関と医療機関との間の合意形 成するための基準その他傷病者の受入れを行う医療機関の確保 に資する事項	
(第7号) その他の基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
傷病者の搬送及び傷病者の受入れの実施に関し必要と認める 事項	
トリアージシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9



生理学的評価

意識
:JCS100以上

呼吸
:新生児(生後28日未満) 30回/分未満または50回/分以上
:乳児(生後28日から1歳未満) 20回/分未満または30回/分以上
:幼児(1歳から6歳未満) 20回/分未満または30回/分以上
:呼吸音の左右差
:異常呼吸

脈拍
:新生児(生後28日未満) 150回/分以上または100回/分未満
:乳児(生後28日から1歳未満) 120回/分以上または80回/分未満
:幼児(1歳から6歳未満) 110回/分以上または60回/分未満

血圧
:新生児(生後28日未満) 収縮期血圧70mmHg未滿
:乳児(生後28日から1歳未満) 収縮期血圧80mmHg未滿
:幼児(1歳から6歳未満) 収縮期血圧80mmHg未滿

SpO2
:90%未滿

その他
:ショック症状
:新生児の場合、出生後5分以上のアプガ - スコア7点以下
1)上記のいずれかが認められる場合
2)乳幼児の体動が著しい場合、乳幼児が号泣している場合等で、各項目を測定することが困難な場合は、第2段階の症状等に示されている項目を優先して観察し、重症度・緊急度を判断する。

小児

症状等

- ・ぐったり、または、うつろ
- ・異常な不機嫌
- ・異常な興奮
- ・妊娠36週未満の新生児
- ・低体温
- ・頻回の嘔吐あるいは胆汁性の嘔吐
- ・多発外表奇形の新生児
- ・出血傾向(血液が固まらない、注射部位よりの出血、紫斑など)
- ・高度の黄疸
- ・脱水症状(皮膚乾燥、弾力なし)
- ・瞳孔異常(散瞳、縮瞳)
- ・痙攣の持続

B
重症度・緊急度
が高い疾患に対
応できる
二次医療機関
(ドクターヘリ要
請を考慮)

生理学的評価

意識: JCS100以上

呼吸: 10回/分未満又は30回/分以上、呼吸音の左右差、異常呼吸

脈拍: 120回/分以上又は50回/分未満

血圧: 収縮期血圧90mmHg未滿又は200mmHg以上

SpO2: 90%未滿、

その他:ショック症状等
上記のいずれかが認められる場合

周産期

症状等

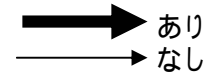
- ・大量の性器出血・腹部激痛・腹膜刺激症状・異常分娩・呼吸困難
- ・チアノーゼ・痙攣・出血傾向(血液が固まらない、注射部位よりの出血、紫斑など)
- ・子癇前駆症状
中枢神経症状(激しい頭痛あるいはめまい)
- 消化器症状(激しい上腹部痛、激しい嘔気あるいは嘔吐)
- 眼症状(眼がちかちかする、視力障害あるいは視野障害)

その他

C 二次医療機関、かかりつけ医療機関等

心肺停止

A
重症度・緊急度が高い疾患に対応できる
二次救急医療機関
(ドクターヘリ要請を考慮)



第2号(医療機関リスト)

		医療機関のリスト
		24時間対応可
重篤(バイタルサイン等による)		対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
心肺停止		対馬病院、上対馬病院
脳血管障害	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	t PA適応疑い	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
循環器疾患	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	PCI適応(ACS疑い含む)	対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
呼吸困難	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
消化管出血	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
急性腹症	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
外傷	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
熱傷	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
中毒	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
意識障害	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
周産期	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
婦人科	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
小児	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等
精神科	その他	対馬病院、上対馬病院
耳鼻咽喉科	その他	対馬病院、上対馬病院
眼科	その他	対馬病院、上対馬病院
口腔外科	その他	対馬病院、上対馬病院
その他	重症度・緊急度【高】	対馬病院、上対馬病院 (ドクターヘリ要請を考慮)
	その他	対馬病院、上対馬病院、かかりつけ医療機関等

第4号(選定基準)

搬送医療機関選定

(1) 基本的事項

医療機関の選定は傷病者の観察の結果、傷病者の症状、重症度・緊急度に基き行うこと。

(2) 搬送先選定要領

傷病者の観察等を実施する際、現病歴、既往歴及びかかりつけの医療機関等の情報を併せて把握し、観察基準に基づき搬送先選定の判断材料とすることとし、必要に応じて観察基準チェックリスト(トリアージシート)を活用すること。

傷病者、家族又は関係者から、救急隊の選択によるか又は特定医療機関へ搬送依頼があるか確認すること。

救急隊が医療機関を選定(選択)する場合

医療機関の選定時には、懇切に説明し確実に了承を得ること。

傷病者の症状(病態)を説明し、搬送先の選定は、傷病者の観察の結果、当該傷病者に適した区分に属する医療機関の中から最も搬送時間が短いものを選定することが基本となるが、かかりつけ医療機関がある場合等には、状況に応じてそれを考慮して選定すること。

ただし、傷病者の状態を勘案し、緊急に治療の必要がある場合又は当該医療機関において受入が困難な場合においてはこの限りではない。

特定の医療機関へ搬送を依頼された場合

ア 傷病者、家族又は関係者から搬送先医療機関を依頼された場合、原則としてこれに応えること。

イ 次の場合は傷病者等に十分な説明を行い、観察基準に基づき傷病者の症状に適した医療機関へ搬送するよう努め、必要に応じて観察基準チェックリスト(トリアージシート)を活用すること。

(ア) 傷病者の症状等から、高度な治療(専門性・高次対応)が必要と判断し、関係者等から依頼された医療機関では処置困難であると判断した場合。

(イ) 傷病者の症状等から、依頼された医療機関まで症状を悪化させずに搬送することが困難と予想される場合。

(ウ) 指定された医療機関までの距離等、業務上支障があると判断した場合。

ただし、特定疾患等で指定された医療機関でしか対応が困難な場合はこの限りではない。

傷病者等に傷病者の症状(病態)及び救急医療体制等の十分な説明を行ったにもかかわらず同意が得られない場合、依頼された医療機関の医師等の判断を仰ぐこと。(必要に応じ、傷病者、関係者等により直接医師等と連絡させることも考慮すること。)

前号により救急隊が搬送することを医療機関が了承した場合は、依頼された医療機関へ搬送すること。

第5号(伝達基準)

医療機関への受け入れ要請連絡

医療機関が傷病者を収容できるかどうかの判断のために、必要な事項を簡潔に伝えること。

- (1) 救急隊名及び搬送連絡を行っているものの氏名(必須事項)
- (2) 傷病者の年齢(推定も可)及び性別(ファーストコール必須事項)
- (3) 現病歴、事故概要 受傷機転(ファーストコール必須事項)
- (4) 傷病者の状態 主訴、バイタル、心電図情報等(ファーストコール必須事項)
- (5) 実施した処置(ファーストコール必須事項)
- (6) 医療機関への予想到着時間(ファーストコール必須事項)
- (7) 既往歴

第6号(受入医療機関確保基準)

(1) 傷病者の受入れに関する消防機関と医療機関との間の合意を形成するための基準

第5号までの基準に従って、傷病者の搬送及び受入れの実施を試みてもなお、傷病者の受入れに時間がかかるケースが発生することが考えられる。

そのような場合に傷病者を速やかに受入れるため、消防機関と医療機関の間で合意を形成する等のルールを設定する。

搬送先医療機関が速やかに決定しない場合の設定

- ・ 当該ルールを適用すべき場合について、照会回数3回以上、又は現場滞在時間(or 医療機関の選定に要している時間)30分以上を設定

受入医療機関を確保する方法の設定

- ・ 消防本部通信指令室(救急隊)及び二次医療機関相互の調整により決定する。

第7号(その他基準)

搬送手段の選択に関する基準

早期初期治療の必要があるため、ドクターヘリ、消防防災ヘリ及びドクターカーを活用する場合には、救急車を活用した場合と、ヘリコプター等を活用した場合において、どちらが傷病者の生命や予後の観点から適当かを勘案し要請すること。

トリアージシート(外因性)

救急隊名		覚知日時 平成 年 月 日 時 分	
医療機関到着日時 平成 年 月 日 時 分		搬送先医療機関	
傷病者情報 氏名: 男・女、M,T,S,H 年 月 日生 (歳)			
初期評価		有	無 評価せず
気道閉塞 呼吸異常 ショック症状 意識低下		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		有	無 評価せず
生理学的評価	GCS4-5-6	8以下	
	またはJCS	30以上	
	呼吸数	10未満30以上	
	脈拍数	50未満120以上	
	収縮期血圧	90mmHg未満	
全身観察		有	無 評価せず
解剖学的評価	開放性頭蓋陥没骨折		
	顔面・頸部の高度な損傷		
	頸部・胸部の皮下気腫		
	外頸静脈の著しい怒張		
	胸郭の動揺・フレイルチェスト		
	腹部膨隆・筋性防御		
	骨盤の動揺・下肢長差		
	頭頸部から鼠径部までの鋭的損傷		
	15%以上の熱傷または気道熱傷		
	両大腿骨折		
デグローピング損傷			
四肢の礫断			
四肢の麻痺			
状況評価		有	無 評価せず
受傷機転	同乗者の死亡		
	車の横転		
	車外に放り出された		
	車が高度に損傷している		
	救出に20分以上要した		
	60km/h以上での衝突		
	バイクと運転手の距離大		
	30km/h以上で走行		
	車に礫過された		
	5m以上はねとばされた		
	衝突部のバンパーに変形あり		
	機械器具に巻き込まれた		
体幹部が挟まれた			
高所墜落(6m以上)			
		有	無 評価せず
熱傷	度熱傷30%以上		
	度熱傷10%以上		
	化学熱傷・電撃傷		
	気道熱傷		
	顔、手、足、陰部、関節の熱傷		
	他の外傷を合併する熱傷		
	小児 度熱傷10%以上、高齢者 度熱傷5%以上		
		有	無 評価せず
中毒	毒物摂取・医薬品(少量の眠剤、抗精神薬を除く)		
	工業用品(強酸、強アルカリ、石油製品、青酸化合物)		
	覚醒剤・麻薬、毒性のある食物、農薬、家庭用品(防虫剤、殺鼠剤等)		
	有毒ガス・何を飲んだか不明のもの		
		有	無 評価せず
無			
<p>C 二次医療機関・かかりつけ医療機関等</p>			
医療機関選定理由 (A B C)		収容決定までの医療機関への交渉回数()	

A
重症度・緊急度が高い疾患に対応できる二次医療機関(ドクターヘリ要請を考慮)

B
重症度・緊急度が高い疾患に対応できる二次医療機関(ドクターヘリ要請を考慮)

トリアージシート(小児)

救急隊名		覚知日時 平成 年 月 日 時 分		
医療機関到着日時 平成 年 月 日 時 分		搬送先医療機関		
傷病者情報 氏名: 男・女、M,T,S,H 年 月 日生 (歳)				
初期評価		有	無	評価せず
気道閉塞、無呼吸		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
脈拍触知せず		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
生理学的評価	新生児(生後28日未満)	有	無	評価せず
	GCS4-5-6	8以下		
	またはJCS	100以上		
	呼吸数	30回/分未満または50回/分以上		
	SpO2	90%未満		
	脈拍数	150回/分以上または100回/分未満		
	収縮期血圧	収縮期血圧70mmHg未満		
	体温	34未満40以上		
アプガ-スコア	出生後5分以上の7点以下			
乳児(生後28日から1歳未満)		有	無	評価せず
生理学的評価	GCS4-5-6	8以下		
	またはJCS	100以上		
	呼吸数	20回/分未満または30回/分以上		
	SpO2	90%未満		
	脈拍数	120回/分以上または80回/分未満		
	収縮期血圧	収縮期血圧80mmHg未満		
	体温	34未満40以上		
<small>乳幼児の体動が著しい場合、乳幼児が号泣している場合等で、各項目を測定することが困難な場合は、第2段階の症状等に表示されている項目を優先して観察し、重症度・緊急度を判断する。</small>				
生理学的評価	幼児(1歳から6歳未満)	有	無	評価せず
	GCS4-5-6	8以下		
	またはJCS	100以上		
	呼吸数	20回/分未満または30回/分以上		
	SpO2	90%未満		
	脈拍数	110回/分以上または60回/分未満		
	収縮期血圧	収縮期血圧80mmHg未満		
体温	34未満40以上			
<small>乳幼児の体動が著しい場合、乳幼児が号泣している場合等で、各項目を測定することが困難な場合は、第2段階の症状等に表示されている項目を優先して観察し、重症度・緊急度を判断する。</small>				
症状等		有	無	評価せず
ぐったり、または、うつろ				
異常な不機嫌・興奮				
妊娠36週未満の新生児、低体温				
頻回の嘔吐あるいは胆汁性の嘔吐				
多発外表奇形の新生児				
出血傾向(血液が固まらない、注射部位よりの出血、紫斑など)				
高度の黄疸				
脱水症状(皮膚乾燥、弾力なし)				
瞳孔異常(散瞳、縮瞳)				
痙攣の持続				
無				
C 二次医療機関 かかりつけ医療機関等				
医療機関選定理由(A B C)		収容決定までの医療機関への交渉回数()		

A
重症度・緊急度
が高い疾患に
対応できる
二次医療機関
(ドクターヘリ要請
を考慮)

B
重症度・緊急度
が高い疾患に
対応できる
二次医療機関
(ドクターヘリ要請
を考慮)

トリアージシート(周産期)

救急隊名		覚知日時 平成 年 月 日 時 分			
医療機関到着日時 平成 年 月 日 時 分		搬送先医療機関			
傷病者情報 氏名:		男・女、M,T,S,H 年 月 日生 (歳)			
初期評価		有	無	評価せず	
気道閉塞、無呼吸		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
脈拍触知せず		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
		有	無	評価せず	
生理学的評価	GCS4-5-6	8以下			
	またはJCS	30以上			
	呼吸数	10未満30以上			
	SpO2	90%未満			
	脈拍数	50未満120以上			
	収縮期血圧	90mmHg未満			
	体温	34 未満40 以上			
有					
症状等		有	無	評価せず	
大量の性器出血					
腹部激痛					
腹膜刺激症状					
異常分娩					
呼吸困難					
チアノーゼ					
痙攣					
出血傾向(血液が固まらない、注射部位よりの出血、紫斑など)					
子癇前駆症状		有	無	評価せず	
中枢神経症状(激しい頭痛あるいはめまい)					
消化器症状(激しい上腹部痛、激しい嘔気あるいは嘔吐)					
眼症状(眼がちかちかする、視力障害あるいは視野 障害)					
無					
C		二次医療機関 かかりつけ医療機関等			
医療機関選定理由(A B C)		収容決定までの医療機関への交渉回数()			

A
重症度・緊急度が高い疾患に対応できる二次医療機関(ドクターヘリ要請を考慮)

B
重症度・緊急度が高い疾患に対応できる二次医療機関(ドクターヘリ要請を考慮)